

問5 加賀市在住の県民は在来線を利用するうえで不便がある 格差解消に努めよ!

現在、金沢発加賀方面への在来線の普通列車は42本ありますが、そのうちの約半分18本が小松駅止まりとなっています。つまり、在来線を利用している学生や車を持たない方が本数や最終列車の時間などで大変不便を感じています。さて、来年春、北陸新幹線県内全線開業に伴い、在来線の経営はJR西日本から経営分離され、IRいしかわ鉄道が経営を引き継ぐことになります。なお、加賀市3駅の1日当たりの乗車人数は平均およそ3000人います。これら通学、通勤、観光などで加賀3駅を利用する方のために格差解消が望まれます。来年春以降、特急列車がなくなることにより、退避が不要になること等もいかし、せめてもう少し、加賀の県民の通学・通勤等の利便性に配慮した見直しを知事に要望いたします。問う。

答弁(知事)

金沢以西延伸後のIRいしかわ鉄道の運行計画については、普通列車の現行本数を維持することを基本に、朝夕の通勤通学客の利便性や新幹線の乗り継ぎなどに配慮したダイヤ編成を検討することとされています。具体のダイヤについては、加賀市を含めた沿線地域住民の利便性に配慮しながら編成してまいります。



石川県議会議員室谷ひろゆき議会報告

現在、県議会議員3期目

県議会では、各委員長歴任

2018年度 厚生文教委員長

2019年度 商工観光公安委員長

2020年度 環境農林建設委員長

2022年度 地方創生・新幹線対策特別委員長

住所：加賀市山代温泉14-67 電話：0761-77-7839

取り組みの詳細は、室谷ひろゆきHPを!

HP1



HP2



(討議資料)

室谷ひろゆき 2023年 第1回県議会 私の主な質問(加賀市関連)と知事答弁

問1 橋立港線及び小野坂トンネルの渋滞緩和、安全対策を進めよ!

大聖寺から小野坂トンネルを抜け、橋立方面と高尾方面に分岐する畑町北交差点の区間は、朝夕の通勤時に多くの方々に利用され、車の渋滞が激しく、児童生徒の通学時の安全も危惧されています。この区間については、これまで、地元要望がなされ、私も何度か安全対策をお願いし、その度に、県でも対策に取り組んで頂いております。こうした中、月日の経過とともに小野坂トンネルの老朽化が進行しており、この道路を通る方々からは、トンネル内の安全対策に加え、老朽化対策も求められています。又、地元区長会からは車線を追加することにより、渋滞を緩和してほしいとの要望もでています。知事に速やかに取り組むようお願いしたい。問う。

答弁(知事)

トンネル内では照明を明るくするほか、車道と歩道を区分するポストコーンを設置するとともに、コンクリート保護工事に今春から着手するなど、歩行者の安全対策の充実を図ります。また、トンネルから畑町北交差点間では、通勤時間帯に渋滞が発生していることから、来年度、トンネル周辺で交通状況を調査し、効果的な対策を検討致します。地元の方々のご意見をうかがいながら、安全で円滑な交通の確保に向けしっかりと取り組んでまいります。



問2 小松山中線(栄谷町間)の速やかな整備を進めよ!

主要地方道小松山中線は加賀温泉郷を結び、沿線には那谷寺やゆのくにの森などの観光施設などに加え、宇谷野工場団地が立地しており、観光バスやトラックなどの大型車も利用

する道路であります。しかしながら、幅員が狭く、歩道も未整備の区間があり、通行に支障をきたしております。安全な通行の確保に向け拡幅整備が必要と考えますが、知事に問う。

答弁(知事)

来年度、拡幅に向けた設計に着手します。

問3 北陸新幹線敦賀乗り換えの不便解消へ工夫を!

来年春、北陸新幹線が県内全線開業となります。とはいえ、現状では、かなりの年月、敦賀止まりが続くこととなります。加賀温泉郷にとって一番のお得意様である関西のお客様には、乗り換えという不便をかけることとなります。このマイナスイメージを払拭し、関西・中京のお客様が、乗り換えの不便さによって避けるような事態はなんとしても防がなければなりません。関係各方面と連携しながら工夫していくことが肝要。問う。

答弁(知事)

乗り換えの機会を活用し、旅の魅力を発信するためのデジタルサイネージ等の設置をJRや鉄道運輸機構に働きかけている。デジタルサイネージでは沿線の観光地の紹介・新幹線の快適性や車窓からの眺望景観など、新幹線に乗ること自体の楽しみ等を積極的にアピールしたい。

今後、北陸三県連携で大阪駅隣接の大型複合施設内に設置する情報発信拠点や名古屋観光物産案内所においても、積極的にアピールする。

問4 大聖寺高校と加賀高校の学習環境及び施設整備の充実について問う。

昨年6月議会において、知事及び教育長に普通科高校(大聖寺高校及び加賀高校)を存続させ活かし続けるための取り組みや将来についてお尋ねしたところ、さまざまな観点から魅力ある学校づくりに取り組むとともにその魅力をアピールしていくことが重要であるとして

いました。

さて、大聖寺高校は創立113年、加賀高校は創立51年となり、校舎等の改修や施設整備が重要となっています。定員充足率を満たすためにも、地域の中学生に選ばれる高校として、学習環境や校舎そのものを時代が求めるものにしていくことが大切です。取り組みを問う。

答弁(教育長)

【大聖寺高校】

来年度、校舎の外壁・屋根の全面改修や照明のLED化・トイレの洋式化等を行ない学習環境の向上を図る。また、加賀市と連携をした探究活動において高校生の目線で地域の魅力を盛り込んだ学校紹介パンフレットを作成し配布するなど学校の魅力の発信に取り組んでいる。他、市内の中学校と部活動の合同練習を行うなど地域と密着した学校づくりを進めているところである。

【加賀高校】

今年度、空調機器の改修やトイレの洋式化などの工事を行っているところであり、引き続き必要な学習環境の向上に取り組んでいきたい。また、生徒が、学校周辺の清掃活動や地元の小学生に対する読み聞かせ活動を行うなど地域との連携を深めている。また、総合学科の特徴を活かして地元企業と連携した商品開発や販売を行うなど地域に根ざした学校づくりを進めている。

◎又、市民から『いつ完成するの?』と、問い合わせの多かった、都市計画道路山代栗津線の工事については、区長会らと共に知事に要望に行き、併せて昨年9月議会で質問(要望)したところ、知事から【北陸新幹線の県内全線開業までに間に合うように全力で取り組む】との回答を得、予算をつけていただき、現在、急ピッチで工事が進んでおります。】

→その他、今議会での質問は、人口流出対策や若者の定着支援・北陸新幹線大阪延伸や未婚の県民の声をふまえた支援強化等について質問しています。

(尚、紙面が限られているため質問および答弁は一部抜粋となっています。)

